

## 阪神新地域ビジョン骨子（案）

### 第 1 章 新地域ビジョン策定の経緯

- ・「21 世紀兵庫長期ビジョン」の策定から 20 年、改訂から 10 年。世界、日本で現在進行する大きな変革の中で、住民が共有できる新たな 2050 年の「なりたい姿」を描く。
- ・ビジョンは多様な主体が共有し、実現に向けて各自の取組や施策を進める。

### 第 2 章 社会的潮流

#### （1）人口減少・超高齢化

##### ① 現状・問題点

- ・兵庫県は 2009 年をピークに本格的な人口減少社会に。平均寿命が伸びるなど超高齢化が進行。
- ・新型コロナウイルス禍による状況は注視する必要があるが、兵庫県から県外への転出超過は増加

##### ② 2050 年に向けて

- ・医療技術の進展や健康志向の高まりでさらに健康で長生きに。高齢者が元気で働き続けることが可能に。
- ・人口の流動性が高まるとともに、働き方が変化、働く場所も変化。
- ・省人化や自動化は生産性を向上させ、ゆとりある働き方を可能にするとともに人々のつながりの必要性を認識させる機会に。時間や空間の余裕が地域でのゆとりのある暮らしを可能に。

#### （2）自然の脅威

##### ① 現状・問題点

- ・気候変動により風水害が激甚化の傾向
- ・未知の感染症の発生が頻発する可能性
- ・今後 30 年以内の南海トラフ巨大地震の発生確率は 70～80%の予測

##### ② 2050 年に向けて

- ・治山治水や防波堤の整備、建物の耐震化などのハード対策とともに、早期避難のしくみや防災に関する人材の育成などのソフト対策の充実で防災・減災の安全安心確信が進む。

#### （3）テクノロジーの進化

##### ① 現状・問題点

- ・ICT、生命科学等の進展が空間・時間・身体の制約を乗り越えていく可能性。
- ・データによって一人ひとりに最適化される暮らしの可能性。
- ・情報格差（デジタル・デバイド）や情報過多になる。

## ② 2050 年に向けて

- ・テクノロジーの進化で働き方が変化。自由な移動や時間、空間の言語の制約を超えたコミュニケーションで多様なコミュニティが可能に。
- ・デジタル革新により社会課題の解決や情報格差が解消し、一人ひとりに最適化されたサービスの提供などが実現。

## (4) 世界の成長と一体化

### ① 現状・問題点

- ・今後、アジア、アフリカを中心に、経済も成長が続く。ICT は世界を一体化。グローバルな人の動きは拡大。
- ・世界の巨大プラットフォームの力が拡大。単なるものづくりは存在感が縮小。

## ② 2050 年に向けて

- ・世界との結びつきが一層深まる時代。国内、世界と結びついて新たな活力を生み出すことが必要に。

## (5) 経済構造の変容

### ① 現状・問題点

- ・情報技術の活用力や知識による格差の拡大の懸念
- ・「省人化」や「自動化」の進展

## ② 2050 年に向けて

- ・兵庫の産業はどのように付加価値を生み出していくかが求められる
- ・株主優先ではなく、社会貢献を使命とする公益資本主義の潮流
- ・共有型経済やワーカーズコープなど社会の連帯を重視した取り組みの拡大

## (6) 価値観と行動の変化

### ① 現状・問題点

- ・持続可能性を重視する価値観やライフスタイルの広がり
- ・シェアリング・エコノミーの拡大

## ② 2050 年に向けて

- ・既存の枠組みにとらわれない考え方や行動が求められている
- ・個人、企業ともに環境や健康への影響を考えた行動が当然のことに。
- ・雇用が流動化し、働き方や暮らし方などの自由が高まる

## 第3章 阪神地域の特性

### (1) 阪神地域の人の動き

- ・30～40 代のファミリー層の転入が多く、20 代の若者層が転出超過
- ・健康寿命が高く、阪神北地域は 2015 年の健康寿命算定結果が男女とも県内 1 位
- ・今の傾向が続けば、2050 年の阪神地域の人口は 2020 年に比べおよそ 140 万人、約 16%減少の見込
- ・デジタル技術の革新が、「ベッタウン」の特性にも影響を与える可能性

## (2) なりたち、自然・文化・歴史遺産

- ・阪神地域は7市1町からなり、兵庫県の南東部に位置
- ・東は大阪府、西は神戸市及び北播磨、北は丹波、南は大阪湾に面し、北部に六甲・北摂連山、南部は大阪湾に面し、武庫川水系・猪名川水系の本支流が流れ、北西部に三田盆地、甲子園浜、御前浜（香櫨園浜）、芦屋浜などがある。
- ・明治期以降、港湾都市神戸と大阪との間で、都市化が進むとともに、臨海部の工業地帯が経済発展。
- ・和洋折衷の生活スタイルや近代スポーツが広まり、「阪神間モダニズム」に代表される特徴的な文化を生み出した
- ・特色ある博物館、美術館やホール、スポーツ施設が多く、地域と一体となった芸術活動やスポーツ活動が展開

## (3) 許容性のある阪神風土

- ・多様な活動をする人たちを受入れてきた許容性
- ・先進的な私学教育をはじめとする高等教育機関に代表される知の集積や、先駆的な芸術家、社会活動、起業に向けた機運など変革の姿勢
- ・自分の生活に対する満足度が高い
- ・健康寿命が高く、活動的なアクティブシニアも多い。地域社会の担い手としての社会的役割の期待が高い
- ・地域活動がさかんな一方で、県民意識調査では、ボランティア活動をしている、してみたい人の割合が、県内の他地域に比べ低い。

## (4) 環境配慮

- ・臨海工業地帯として様々な環境問題に直面したが改善に成果
- ・「尼崎 21 世紀の森構想」や「北摂里山博物館（地域まるごとミュージアム）構想」など地域の自然、環境を守り、再生する取組を展開
- ・阪神地域固有の自然環境を守り、地域環境の恵みを持続的に享受していくためには、CO2 削減への取り組みと脱炭素社会への前進が必要

## (5) 多彩な産業

- ・明治時代には尼崎の臨海部を中心に多数の工場が立地し、工業地域として発展、現在ではものづくり産業や起業が活発に
- ・北部では、都市農業や都市近郊農業が盛ん。「阪神アグリパーク構想」を推進している
- ・伊丹や灘五郷（灘五郷のうち西宮郷及び今津郷）の銘醸地が集積
- ・平成 30 年に第二名神高速道路の開通し、川西市内にインターチェンジが開設され阪神高速湾岸線とあわせ、物流拠点の整備が進む

## (6) 災害への備え

- ・武庫川や猪名川の河川災害や臨海部の高潮災害等の発生
- ・阪神地域では住民の自主的な防災に関する意識が高い
- ・地域が一体となった住民による自主防災力の向上の要請
- ・近い将来の南海トラフ巨大地震の懸念

## 第4章 新地域ビジョンの実現に向けたシナリオ

### (1) 新地域ビジョンの基本理念

#### 「コ・クリエーションなまちの実現～住んでよし、働いてよし、集ってよし～」

- ・様々な人々がそれぞれの環境を認め、できる人ができることに取り組み、重層的につながることにより、豊かな暮らしと地域の活力を創造する「コ・クリエーションなまち」を実現する。

- 住んでよし ・ ・ 誰もが自然と参加できるコミュニティがあり、関係性を維持しながら、地域住民が住み続けたいと思えるまち
- 働いてよし ・ ・ 多彩な産業、豊富な地域資源、近郊都市へのアクセス、多数ある高等教育機関などの地域の強みをいかし、誰もがいつでもどこでも学べ、働きやすく、起業しやすい環境
- 集ってよし ・ ・ デジタル技術を活用し、都市、里山、里浜に近い自然の魅力や、多様な芸術文化を活かし、魅力のある時間や空間をつくる。

### (2) 新地域ビジョンの実現に向けた方向性

#### ① 自分らしいスタイルが実現できるまち

- ・利便性と自然のバランスのとれた職住近接の地域で、起業やまちづくり、生涯学習などの多彩な活動などを通じて、地域コミュニティの共創（コ・クリエーション）で挑戦できる地域、多様な暮らしを実現

#### ② 自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち

- ・地域の歴史や自然、芸術文化を大切にし、こころ豊かで地域に愛着を持った人を育む

#### ③ みんながつながる、やさしいまち

- ・女性、子ども、若者、高齢者、障がい者、外国人など多様な人々が参画した、おせっかいがおせっかいでない、みんながつながるやさしいまちを実現
- ・地域のみんなが助け合う防災・減災社会を実現

#### ④ にぎわいのあるまち

- ・歴史や伝統、自然、芸術文化などの地域資源の再発見や磨き直し、活用により、地域内外の幅広い人々の交流を促進し、一層のにぎわいのあるまちを実現

## 第5章 新地域ビジョンの実現に向けて

- ・大学、企業、行政、市民がビジョンを共有し、連携して実現に向け、取組を進める
- ・地方自治体は地域の活動を支援